

# 2021年度リハビリテーション学科新入生における志望経緯に関する調査

## An investigation on the backgrounds of new students selecting the faculty of rehabilitation 2021, Naragakuen University

飯塚 照史・辻下 守弘・池田 耕二・城野 靖朋・中島 大貴  
Terufumi IITSUKA, Morihiko TSUJISHITA, Koji IKEDA  
Yasutomo JONO, Daiki NAKASHIMA

### 要旨

学部設置3年目を迎えたリハビリテーション学科においては、定員充足率増加に伴い新入生の進学経緯も多様になっているものと考えられる。そこで、3期生においてアンケート調査を実施し、2期生との比較を通じてその傾向について比較検討した。結果、当初における職業選択は変更されることなく、近い人物への相談を伴ったオープンキャンパスへの参加、加えて本学近隣環境等への好感を以て進学を決定している経緯があり、2期生との大きな変化はなかった。一方で、プレゼンスの高まり、教員対応への肯定的意見と捉えられる側面もあり、本学魅力の一端として認識する必要性が示唆された。以上の結果は、今後の広報戦略に資するものであると考えられた。

キーワード：リハビリテーション、作業療法、理学療法、広報

### 緒言

本学保健医療学部は2019年度に設置され、2021年度に3期生を迎えた。この間にあっても関西圏では3つの4年制養成校が新設されていることから、本学の知名度や校風に合わせた広報戦略に関して単年度での検討も重要である。2期生を対象とした志望経緯調査では、低年齢における理学療法・作業療法といったリハビリテーション関連職種の周知、ならびに本学の特徴的教育実践方法の周知が重要と結論づけた<sup>1)</sup>。これを基として、COVID-19対策を踏まえた2020年度の広報活動においては、高校1年生に対する進学ガイダンス実施やオープンキャンパス等での本学プレゼンス強調（先端リハビリテーション、在学生の特徴的活動の紹介など）、あるいはオンライン授業の充実についても周知を徹底した。結果として、定員充足率は改善し、受験者および入学者は増加する傾向にある。しかし、大学進学率が54.4%とされる近年にあっても10年後には18歳人口が全国平均で10%程度減少するとの見込みであることから、進学経緯に関する経時的な変化を捉え基礎資料とすることで次年度以降の広報戦略に資するところが大きいものとする<sup>2)</sup>。以上の背景を基に本調査では、3期生の志望経緯に関する調査を行い2期生との比較を通じて、その傾向を捉えることを目的とした。

### 方法

#### 1. 対象

2021年度入学生（3期生）89名を対象とした。内訳は理学療法専攻60名（性別；男35名、女25名）、作業

療法学専攻 29 名（性別；男 14 名、女 15 名）であった。

## 2. 方法

グーグルフォームを用いてアンケートを作成し、2021 年 7 月 1 日から 8 月 31 日までの 2 ヶ月間に学内電子掲示板を用いて周知、回答を依頼した。アンケート内容は 2020 年度実施分<sup>1)</sup>と同様とし、志望変更の有無及び理由、志望選択にあたって相談した相手、志望理由、本学受験理由については選択式、入学して良かったと思える点については自由記述とした。分析方法は、選択式についてはそれぞれの回答件数につき相対値を示す記述統計とし、自由記述について意味を成す一文を抽出し、同義のものをグループ化する手法にて件数を算出しデータとした。以上のデータについて、2020 年度学生（2 期生）と比較を行い、経時的変化の傾向を検討した。

## 3. 倫理的配慮

アンケート調査にて収集された回答について個人情報とは特定されず記述的統計にて公表する事とともに、自分の回答をデータとして用いられたくない等の拒否権の保障（オプトアウト）については、9 月 14 日から 2 週間の間に対象学生に周知したが、拒否を示す者はいなかった。

## 結果

### 1. アンケート回収率

2021 年度入学生（3 期生）89 名中 65 名より回答を得、回収率は 73%であった。

### 2. アンケート結果

#### 1) 理学療法士・作業療法士の志望変更の有無及び理由（表 1）

2 期生同様、3 期生においても「志望変更なし」が 55 名と多数を占めていた。志望変更をした者については、「他医療職から理学療法に志望変更」「他医療職から作業療法に志望変更」はそれぞれ 2 名、「理学療法から作業療法へ志望変更」は 4 名であり、「その他」は 2 名であった。2 期生との比較において、他医療職から理学療法・作業療法への志望変更が少なくなっていた。

表 1 理学療法士・作業療法士の志望変更の有無及び理由

志望変更経緯	2021年度			2020年度	
	人数	男女(名)	理由	人数	男女(名)
変更なし	55	31・24	-	41	24・17
他医療職から理学療法に志望変更	2	0・2	・部活の経験を活かしたいと思った。 ・病院実習で憧れを持った。	9	4・5
他医療職から作業療法に志望変更	2	1・1	・医療職を調べて自分に合っていると思った。	5	2・3
理学療法から作業療法へ志望変更	4	3・1	・ケガをしたときに作業療法の先生に診てもらった。 ・将来の就職状況を見て変更した。 ・様々な方のお話を聞いて変更した。	4	4・0
その他	2	1・1	・受験結果を踏まえて変更した。	2	0・2
合計	65			61	

#### 2) 志望選択について相談した相手（表 2）

母親、高校の担任、父親、進路相談の先生で 7 割程度と大半を占めており。家族あるいは進路指導に直接関わる教員が相談相手となる傾向は 2 期生と同様であった。

表2 志望選択について相談した相手

相談相手	2021年度		2020年度	
	件数 (件)	割合 (%)	件数 (件)	割合 (%)
母親	55	29	52	29
高校の担任	41	21	35	19
父親	37	19	30	16
塾や予備校の先生	13	7	11	6
高校の同級生や後輩	11	6	8	4
進路相談の先生	10	5	19	10
部活の先生	9	5	11	6
病院に勤務している理学療法士	6	3	6	3
祖父母	5	3	3	2
奈良学園大学に在籍している高校の先輩	2	1	0	0
病院に勤務している作業療法士	1	1	2	1
病院に勤務している上記以外の医療関係者	1	1	2	1
病院に勤務している看護師	0	0	3	2
病院に勤務している医師	0	0	0	0
合計	191	100	182	100

## 3) 志望学科の選択理由 (表3)

「スポーツなどの自分の経験や趣味を活かせると思ったから」「ケガや病気などで理学療法や作業療法を見て自分もなりたと思ったから」「困っている人を救える職業だと思ったから」「国家資格を持つことが様々な面で有利だと思ったから」「今後ますます重要になるなど将来性があると思ったから」で9割程度と上位を占め、2期生と同様の傾向であった。

表3 志望学科の選択理由

回答	2021年度		2020年度	
	件数 (件)	割合 (%)	件数 (件)	割合 (%)
スポーツなどの自分の経験や趣味を活かせると思ったから	36	21	33	20
ケガや病気などで理学療法や作業療法を見て自分もなりたと思ったから	27	16	32	19
困っている人を救える職業だと思ったから	25	15	33	20
国家資格を持つことが様々な面で有利だと思ったから	24	14	22	13
今後ますます重要になるなど将来性があると思ったから	22	13	26	15
親に勧められたから	15	9	8	5
卒業後の就職が有利だと思ったから	9	5	10	6
創作的活動(絵画やモノ作りなど)の自分の経験や趣味を活かせると思ったから	5	3	1	1
塾や予備校などの先生から勧められたから	5	3	0	0
高校の先生に勧められたから	1	1	3	2
大学の先生に勧められたから	0	0	1	1

## 4) 本学選択理由 (表4)

「オープンキャンパスが良かったから」「大学の設備が整っていると思ったから」「校舎がきれいだったから」「高校の先生に勧められたから」「通学が便利だったから」で8割以上を占め、2期生と同様の傾向であった。一方で「塾や予備校などの先生から勧められたから」が2期生より微増する傾向であった。

表4 本学選択理由

回答	2021年度		2020年度	
	件数 (件)	割合 (%)	件数 (件)	割合 (%)
オープンキャンパスが良かったから	41	25	28	21
大学の設備が整っていると思ったから	40	25	40	29
校舎がきれいだったから	24	15	22	16
高校の先生に勧められたから	17	11	13	10
通学が便利だったから	14	9	14	10
塾や予備校などの先生から勧められたから	10	6	4	3
親に勧められたから	6	4	3	2
評判が良かったから	4	2	3	2
先輩に勧められたから	4	2	0	0
先生の専門分野が自分の興味のある分野だったから	1	1	9	7
合計	161	100	136	100

## 5) 入学して良かったと思うこと (表5)

自由記述回答項目を意味毎に分類した結果、環境・設備に関すること、教員の授業・指導についての意見が多数を占めていた。2期生に比して教員に対する意見が増加していた。

表5 入学して良かったと思うこと

内容および詳細	2021年度		2020年度	
	件数 (件)	割合 (%)	件数 (件)	割合 (%)
環境・設備に関すること				
施設がきれい	12	19	4	6
設備が整っている	10	16	8	11
交通の便がいい	4	6	4	6
静穏な環境	3	5	3	4
感染対策が出来ている	1	2	0	0
教員の授業・指導				
教員が優しい・質問しやすい	20	32	15	21
授業が丁寧・楽しい・分かりやすい	6	10	10	14
国家試験対策	1	2	0	0
教員の専門性	0	0	2	4
友人				
いい友人が出来た	6	10	2	4
不明				
登校してないので分からない	0	0	21	30
合計	63	100	69	100

## 考察

## 1. 理学療法・作業療法の志望経緯、理由について

3期生に対する本アンケート調査においては、2期生との大きな傾向の変化は認められず、一旦決定した職業選択は多くの学生で変更なく、両親あるいは高校の担任といった近い人物との相談を経て、オープンキャンパスで本学の魅力や環境面に好感を持ち、進学を決定しているものと推察された。理学療法・作業療法といったコミディカル分野における選択理由については、従前より両親などの近い人物からの勧奨が大きく影響していることが指摘されており<sup>3)</sup>、本アンケート結果においても同様であることから普遍的であるものと考えられた。一方で、他医療職から理学療法あるいは作業療法に志望変更した学生においては、その理由として職業特性を踏まえた自己適性(部活の経験等)を挙げていた。同時に理学療法から作業療法へと志望変更をした学生においては、実際に作業療法の先生に診てもらったという経験以外は、情報を得たうえで吟味した様子がうかがえる内容(将来の就職状況、様々な話等)が挙がっていた。これらの結果については、一定の傾向を見出すことはサンプル数が少なく限界があ

るが、自己適性に関する認識とともに、豊富な情報提供が職業選択に影響することが示唆される。医療職に就きたいといった漠然とした職業選択から理学療法・作業療法へとつなげるためには、これまで以上にリハビリテーション学の魅力の発信が広報に資するものと考えられた。

また、理学療法・作業療法を選択する理由としての「自身の特技やスポーツ歴といった特性を活かせる」や「困っている人を救える職業だと思った」は、特性や想いの自己認識を反映する項目であるものと考えられ、2期生同様主体的な選択理由が上位を占めていた。「国家資格を持つことが様々な面で有利だと思ったから」「今後ますます重要になるなど将来性があると思ったから」を付加的に捉えていると想定すれば、リハビリテーション学領域を志望する学生については、“自分が何をしたいのか”“その職業を選択することでどういう利点があるか”という自身の特性や将来性を重視していることがうかがえる。これに対し、松崎らの医療系養成校への進学動機に関する調査では「正課外重視（サークル活動等の充実度）」「周囲の評価（学校に対する評判等）」が専門学校の選択理由に挙がることを述べている<sup>4)</sup>。すなわち、自身の特性や将来性を重視する大学選択とは異なる部分であると同時に、広報戦略にも資する情報と捉えることが出来る。単純に捉えれば、本学のサークル活動の充実度や周囲の評価や将来性について間接的に示すことが出来れば、大学進学あるいは本学のプレゼンスを高めることも可能になるものと考えられる。

しかしながら、3期生において作業療法学専攻における入学者が2期生より増加しているという点については、本アンケート結果からその原因系を推察することが出来なかった。本学オープンキャンパスで来校する時点では、すでに職業選択が決まっているものと考えられ、今後も継続して進学ガイダンス等での啓発、とりわけ低学年での広報を積極的に行っていく必要があるものと考えられる。これに際して、白濱らは<sup>5)</sup>医療福祉職の認知度についての調査の中で、情報媒体として上位から、インターネット、見学、体験を挙げており、職業選択における情報提供をホームページ上で実施するといった工夫も望まれるものと考えられた。

## 2. 本学選択理由および入学後の印象

本学選択理由には、オープンキャンパス時に感じた環境、設備に関する要因が多数を占めているものと捉えられた。これらは新設校としての利点であると同時に、経年により薄れていく魅力でもあるため楽観的に捉えるべきではなく、今後も継続して本学の魅力を発信し続けることが有効であろう。一方で、「塾や予備校などの先生から勧められたから」といった理由が相対的に増加していたことは、本学が進路指導の立場にある教員等に周知されていることがうかがえ、これまでの広報活動が奏功している一端であるとも捉えられた。

入学後の印象については、「教員が優しい・質問がしやすい」「授業が丁寧・分かりやすい」といった肯定的意見が多数を占めていた。とりわけ教員に対する肯定的意見は、COVID-19感染対策の影響でオンライン授業がメインであった昨年度より増加しており、対面授業等においても教員の姿勢が一貫しているものと推測できる。データ数が少なく、設問が選択式であることを踏まえれば一元的に良いとは断定できないが、リハビリテーション学科の教員の姿勢が学生に好印象を与えている側面もあることがうかがえる。講義あるいは演習場面では厳しく対応をすべき局面もあることは言うまでもないが、面倒見の良い大学であることも本学の魅力のひとつとなることが期待される。

## 結語

3期生におけるアンケート結果から、一旦成された進路選択が変更されることなく、近い人物との相談を経て本学オープンキャンパスへの参加が本学志望に直接的に影響しているものと推察され、2期生と同様の傾向であった。一方で、本学のプレゼンスの高まりと捉えられる部分もあり、加えて魅力の一端として教員の学生対応に対する肯定的意見の増加と取れる結果も得られた。本結果については、新入生に関する志望選択経緯を明らかに出来た

ものであると同時に、本学の魅力を適切にとらえ、データに基づいた広報戦略に資するものであると考えられた。

## 文献

- 1) 飯塚照史, 辻下守弘, 池田耕二, 城野靖朋, 中島大貴. 本学保健医療学部リハビリテーション学科志望経緯に関する調査. 奈良学園大学紀要 2020. p.149-55.
- 2) 新倉健二, 高橋一男. データからみる 地方私立大学の入学定員充足状況 リクルート カレッジマネジメント. 2021; 228: p.10-7.
- 3) 山田弘幸, 笠井新一郎, 石川裕治, 長崎比奈美, 稲田勤, 福永一郎. 言語聴覚療法・理学療法・作業療法専攻1年生の入学経過等について. 高知リハビリテーション学院紀要. 1999; 平成 11 年度: p.91-7.
- 4) 松崎正晃, 園田直子. 進学動機と入試区分からみた医療系専門学生の学校適応. 久留米大学心理学研究. 2019; 18:p.1-9.
- 5) 白濱勲二, 安田保典. 神奈川県内高校生の医療福祉職の認知度, 職業選択, 作業療法のイメージに関する実態調査. 神奈川県立保健福祉大学誌. 2020; 17 (1):p.71-81.